

アメリカ留学

情報文化学科 2年 高橋健太

2014年8月から約4か月間の留学は19年間生きてきた中で最も有意義な時間を過ごすことができた。高校2年生の時の英語の担当だった先生が自身の留学体験を話してくれたことがきっかけで留学に興味を持つようになりました。元々教育の現場に身を置きたいと考えていたが、専攻は数学を教えたいと思っていたが大学受験を機に専攻を英語にすることにしました。元々国際情報大学へ進学しようと思ったのも留学制度あったからでした。いざ留学の準備に入ると先輩方から聞いていた以上に大変だったし自分が今までいかに周りの環境に甘えて生きていたか留学に行く前から感じていました。準備を乗り越えて長時間のフライトと移動を経て寮に到着しました。そこでは多くの人が私たちの到着を待っていてくれましたが何を話せばいいのかどう話していいのか全く分からなかったのがあたふたしていました。あたふたした初日にはさらにハプニングがありました。寮の部屋にチェックインを終えてWalmartへ大学が運営しているsafe ride送迎バスで行けることになったので買い物に出かけたのですが自分たちが話を聞いていなかったのか原因は分からなかったのですが帰りのバスが既に時間外になっていて寮に帰ることができませんでした。他のメンバーやWalmartの職員さんの手助けもありなんとかバスを手配して寮に帰ることができたのですが自分はこの時何もすることができませんでした。この先本当に生きていけるのか、4か月後に同じような状況になった時に自分では対処できるようになっているのか、アメリカ1日目にして多くの不安が残るものになりました。さらに自分の英語力の無さを痛感する日々は続きました。大学のレクや授業では先生をはじめゆっくりとした聞き取りやすい英語を話してくれる人の英語は理解することができたのですが他の学生や周囲に言葉を理化することがまだできませんでした。さらに大学のイベントで講演を聞く機会があり参加したのですがほとんど理解することはできませんでした。悔しいという気持ちとともにこのままじゃいけないという危機感が芽生えました。これをきっかけに意識的にもっと英語に触れるように生活していこうと思いました。英字新聞を一つの記事でもいいから読むこと、大学のイベントに参加すること、洋楽に触れること、テレビを見ること、積極的に買い物するものがなくても外に出ること、そして一番重要な他の国の人たちと会話をする、これらのことを意識的にするようにしていきました。まず大学では寮を含めて新聞を手に入れることが簡単にできる良い環境だったので新聞に触れることにしました。自分の興味があるものでスポーツやIT関連の記事を読んだりしました。新聞は分からない単語の宝庫で、中には専門的な単語があつたりもしましたが分からない単語だけでした。辞書を片手に新聞を読み始めてもわからない単語だらけで辞書を引いている時間のほうが確実に多かったです。日本で新聞を読んでいた時はすべて流し見を含めて1時間弱のところ、1記事を理解するのに30分以上かかっていました。自分のためになるとはいえ

正直とても大変でした。授業で読んだ新聞や本を要約して発表する **article report** と並行してやっていくうちに記事の中の本質の部分を読み解く力を徐々に身に付けていくことができるようになったと感じました。しかし文字の並んだものに触れていても **listening** や **conversation** の力が身に付く訳ではないので英語耳にするために洋楽を聞き始めました。日本にいる時も少しは聞いていたのですが明確に意図をもって聞いているわけではありませんでした。様々なジャンルや様々なアーティストの洋楽を聞き始めて気づいたことはそれぞれに独特な表現や言い回し省略の仕方があるということです。日本語に一つの言葉で複数の意味を持つ単語はあまり多くないですが、英語にはひとつの単語に様々な意味のあるものや同じ意味でも複数の言い回しや単語存在するということです。これをきっかけに自分は洋楽を聞くことよりもほかの人と話すことが重要であると再確認することができました。そこで他国の人とコミュニケーションがとれる機会を考えたときにこの大学には最高の環境がありました。それはこの大学では毎日何かしらのイベントが開催されていてそのほとんどが無料であり誰でも簡単に参加することができるからです。イベントの種類は本当に多種多様でほとんどが大学内で行われるため移動が大変であったりしません。主なイベントとして大学のスポーツ観戦（アメフト・バレー・バスケット・女子サッカー）や食事をしながら話をする、フリスビーを使った体を動かすゲーム、映画鑑賞、様々な動物と触れ合う、音楽をかけながら踊る、コメディショー、有名な人の講演などこの他にも多くのイベントが大学内で開かれています。上記のようにインドア派アウトドア派関係なしに自分にあったイベントに参加することができます。自分はどのイベントにも幅広く参加しましたがアメフト観戦、Paint U、映画鑑賞です。

【アメフト観戦】



日本ではあまり馴染みのないスポーツだがアメリカではとても人気があり大学のアメフトは優勝経験もある強豪だったので見に行ったら想像以上にとても面白かったです。またこの大学はアメフトの強豪校であったので試合展開も面白く、応援も簡単で声を出しやすいのでのめり込んでいました。また試合観戦の他にもアメフトの試合前に行われていたテールゲートも魅力の一つでした。当初

の目的であるコミュニケーションを取るという面においてもそのスタジアムに来ている人と共通の楽しみや応援が簡単にできるのでコミュニケーションも取りやすいのでとてもいい機会でした。

【Paint U】



このイベントは僕が留学中に経験した中で最も楽しくエキサイティングでした。大学内の中庭のような場所にブルーライトの装置が付いたDJブースがありDJの奏でる音楽とともにダンスをしながらブルーライトに当たると光る特殊なペイント塗料を使って歌って踊って騒ぐといった最高に **crazy** なイベントでした。あの空間にただでダンスが下手だからとか関係なしに

楽しむことができ、楽しい時間を共有することで友達を作ることもできると思います。日本にもこんな楽しいイベントがあればな、とつくづく感じました。

授業内でも楽しめるイベントは多くありました。大学の授業や寮生活では使わないような施設へ行って日本にいても見ることのできないような放送（テレビやラジオ）の施設や特殊な実験機械など貴重な経験ができました。また **Field trip** という授業の一環として学外へ出て農場へ行ったり博物館へ行ったり動物園へ行ったりと多くの経験をすることができました。その中でも特に印象に残っているのがジェーシー・ジェームスの博物館に行けたことです。自分の大好きな美しき犯罪者でジェームスが使っていたカッタラスや銃など様々なものが展示されていて自分の中では夢のような時間でした。この留学を通して **Field trip** はその地域や国の文化を学ぶ上でとても良いシステムであると感じました。机に向かってただ文法や発音の練習をしたりだけではやはり英語力にも異文化理解にも限界があるし、外へ出て生の多くの英語に触れることや実際に見て文化を学ぶことができるこのシステムはぜひ日本でも取り入れてほしいものだと感じました。

留学全体を通して振り返っても楽しかったこと、最高の時間であったという印象しか最終的には残っていませんがもちろん勉強も大変でした。自分はBグループでAグループの人たちの大変さとはまたちがったものでした。個人的には内容の難しさよりも毎日勉強をする、宿題が毎日あるといった大学入学前にはやっていた毎日机に向かうといった習慣を作ることに慣れることがとても大変でした。もうひとつ完全に個人的ですが朝毎日同じ時間に起きなければいけないというのも大変でした。大学では自分でとる単位を決めて自分に合った時間割を作ることができますがその習慣が身体に染み付いてしまったせいか朝起きることはとても苦労しました。

留学期間ではこの他にもホームカミングやハロウィン、サンクスギビングなどといった

イベントも体験することができました。どれも最高の思い出ですが自分には1つだけに苦いようでユニークなハプニングに合いました。

【エレベーター事件】



それは12月13日まさに留学最終日の寮での最後の夜を過ごしているとき4階とロビーを行き来しながらエレベーターに乗っていたとき突然エレベーターが止まりました。最初何が起こったか分からずエレベーター長いと階数表示を見ると3階から全く動いていませんでした。自分でも後々考えてみるとよくあの状況で冷静に非常電話かけて受け答えしていたのかなと実感する機会でもありました。その

時に友達にも連絡したのですが助けに来てくれた人の他に一部が冷やかに来ていたのも今となっては楽しい思い出になったのではないのでしょうか。

自分の留学生活はハプニングに始まりハプニングに終わったとても **crazy** な留学生活になったと自信をもって言えます。

【さいごに】

今回、留学を無事成功させることができたのも様々な方の支えがあったからだと思います。留学に対して金銭面に加えて多くのサポートして頂いた両親、準備の過程においてサポートして頂いた先生や先輩・学務課のみなさん、留学先での寮生活をサポートしてくれたRAの方々、沢山の課題とそれ以上の愛と **Bearcats** 魂をくれた **ESL** の先生方、**conversation partner**、共に学び笑いあった **ESL** のみんな、そしてアメリカ留学でであった最高の奴ら **ISA** のみんな。留学に携わって下さった方々のおかげで留学を成功させることができました。この場を借りて感謝したいと思います。皆さんのおかげで最高の留学生活を送ることができました。ありがとうございました。